



2012 J.League Division2 第41節 徳島ヴォルティス 戦

11/4 (日) 15:00~

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

11/4号

編集発行: 『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく & 吉田鑄造

today's guest : 徳島ヴォルティス 2012 J2 19勝8分1敗 勝ち点 65 第4位

1955年に創設の『大塚製菓サッカー部』が母体。旧JFL時代に「ヴォルティス徳島」としてJリーグ参入の機運が高まった時期があったが断念。その後はアマチュアの強豪としてJFLに君臨した。2004年に「徳島ヴォルティス」としてJ参入を目指すこととなり、JFLを優勝(2003年に続く連覇)して翌年にJ2加盟。昨シーズンはギリギリまでJ1昇格圏内(3位)にいたも、ホーム最終戦(3節)で2位・サガン鳥栖との直接対決に敗れて得失点差で札幌に抜かれ圏外へ。最終戦も落としてJ1昇格ならず。(吉田鑄造)

前節、最下位・町田との残留を懸けた直接対決に、残念ながら敗れてしまったFC岐阜。この対決を制していれば、今期の岐阜の残留・町田の最下位が確定していただけに、何としても勝利したかった試合だったが、ホームで降格したくない町田も必死だった。後半開始早々、選手2人を交替して臨んだ町田に対し、岐阜はその隙を突かれて失点を許してしまった。その後、岐阜も追い上げたがゴールは遠かった。これで町田との勝ち点差は縮まっていたが、順位を逆転されたのでも追いつかれたのでもないし、ましてやリーグ戦が終わった訳でもない。残り2試合で勝ち点差3という優位性は依然として残っている。残り2試合、チームは丸一となって、プレッシャーに負けることなく、しかし油断もすることなく、最後まで結果を求めて必死に戦って欲しいと思う。

さて、いよいよ2012年J2シーズンもホーム最終戦を迎える。久しぶりにメモリアルにて迎える対戦相手は徳島ヴォルティス。現在13位と低迷しているが、昨年は4位と惜しくもJ1昇格を逃した、実力は十分にあるチームだ。個の力に優れた選手も多く、特に現在9得点を挙げてチーム得点王となっている#11FW津田は岐阜県出身。向こうも気合いが入っているだろうが、こちらとしても絶対に点を取られたくない相手だ。また、#20三田にとって徳島は前に所属していたチーム、彼の奮起にも期待したいところだ。その徳島との通算対戦成績は5勝1分5敗と完全に互角だが、ことホーム長良川での対戦に関して言えば、4勝1分1敗と勝率は岐阜の方が上だ。今節はチーム得点王の#18FW洗一が累積警告で欠場と厳しいが、この相性の良さと、ホーム長良川という地の利を活かして、この試合は何としても勝利で飾りたい。どうしても気になる最下位・町田は、今節は13位・水戸とのアウェイ戦(13時キックオフ)だ。こちらの試合開始時(19時キックオフ)には結果が判っていることと思うが、しかし、要はこちらが勝てば良いだけの話(もちろん、町田が負ければ岐阜が勝利で残留が確定)だ。どうしてもプレッシャーのかかるホーム最終戦だが、泣いても笑っても、これが今年最後のメモリアル。ならば、選手たちを信じて最後まで声援を送り、彼らのプレイを後押しして、そして、歓喜の万歳四唱で彼らを迎えよう。そのために、一人一人が出来ることをやりきろう。さあ、決戦だ。(ささたく)

◇『岐大通』バックナンバーのお知らせ

すべてのバックナンバーを「吉田鑄造総合研究所」でpdfファイルを公開しています。配布時はA3サイズだったものも、こちらではご自宅などで印刷しやすいよう、すべてA4サイズに修正いたしました。下記アドレスをご参照ください。

<http://www.cyic.co.uk/fcgifu/gidaidohri.html>

■編集子より■

ご愛顧いただきありがとうございます。今シーズンも「全ホームゲーム」での発行を遂行することが出来ました。FC岐阜はまだJ2残留を確定させていませんが、おそらくこの『岐大通』が今シーズンのラスト・イシューとなることでしょう。来季もいまのところ全ホームゲームでの発行を予定しております。また春にお逢いしましょう。(編集担当: 吉田鑄造)

2012J2 順位表 ■ 第40節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	甲府	82p	+26	61	35	F●	A△
2	京都	70p	+14	59	45	F●	A●
3	湘南	69p	+19	62	43	A●	H○
4	大分	67p	+16	56	40	F●	A△
5	横浜FC	67p	+15	58	43	F●	
6	千葉	66p	+23	56	33	A○	H△
7	東京V	63p	+19	64	45	A●	H○
8	山形	61p	+7	51	44	A●	H△
9	栃木	60p	+3	48	45	A△	H○
10	岡山	59p	+4	37	33	A○	F●
11	松本	58p	+5	46	41	F●	A●
12	北九州	58p	+4	50	46	H○	A●
13	水戸	55p	+1	45	45	F●	A△
14	熊本	55p	-5	40	45	A●	F●
15	徳島	50p	-1	45	46	A●	
16	草津	47p	-11	30	41	H△	A△
17	愛媛	44p	-2	43	45	H△	A△
18	福岡	41p	-12	52	64	A△	F●
19	富山	35p	-22	35	57	A△	H△
20	鳥取	35p	-45	31	76	H△	A●
21	岐阜	34p	-27	25	52	—	—
22	町田	31p	-30	33	63	H○	A●



本庄工業株式会社

<http://www.honjp-woodream.com/>



何も無い店だけど...

心の花が咲く...

何も無い店だけど...

心癒される...

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休: 日曜日(今日はお休みです)



岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

【第3節】岐阜0-0山形

●メドウでの最終戦となった山形との試合。ここのところ調子を落としているのか結果の出せない相手に対し、アウェイでの雪辱を晴らす絶好の機会となったが惜しくもスコアレス・ドロー。惜しくも、と書いたがシュート4本で枠にも飛ばず……では何ともならないか……。最低限の勝ち点1を加算したことはよかった。いろいろ問題はあるが、やはり専用スタジアムはイイ。メインもバックもサイドも一体になれるような気がするし、相手に対するプレッシャーもメモリアルとは比べ物にならないくらい様な気がする。それを生かせなかったことが残念だ。あ、それから10試合出場おめでとう！>野垣内。正道の17番を引き継いだ選手が10試合か。感無量だ。今後もさらにがんばってほしい！（ぐん、）

●スコアレスドローが妥当な試合だなあ…と思いながら観ていた。ウチはホーム、対する山形は水曜に大阪・長居で天皇杯を戦っていて2戦連続の“アウェー”。環境的には岐阜の方がずっと有利なのに、スコアレスドローが妥当な膠着戦になってしまう。もちろん、勝ち点1はゼロよりいいに決まっているが、勝ち点3が獲れない。それが岐阜がこの順位にいる理由でもあるのだろう。（吉田鑄造）

【第3節】松本1-0岐阜

●非常に厳しい条件下でのアウェイ戦。あと、ほんのちょっとのところで勝ち点を失ったことはとてもツライ。確かに主導権は握られていたけれども、あそこまで粘ったのだから、なんとしてでも勝ち点を取らせてあげたかった……。返す返すも関田の負傷退場が痛恨の極みと言うべきか。敵の指揮官の狙い通りになってしまったことが悔しい。ただ、この平日のアウェイにも多くの仲間が駆けつけてくれた。スカパー！の中継が始まった時に映し出された仲間の面構えには正直シビれた。戦いに挑む者の表情に思わず見とれてしまった。心の底からうらやましいと思ったし、現地に行けないわが身を悔やんだ。来季こそは……と思うが、その前になすべきことがある。必ず、みんなで勝ち取ろう！（ぐん、）

【第3節】京都3-1岐阜

●ああいうミス、しかもソレを立て続けにしでかしたらさすがに見逃してはもらえないな……。そういう印象が残った試合。前半2点目を奪われた時には「夢のスコア」という言葉が頭の中を行ったり来たりしてたことを告白します。まさしく、好き放題にやられて「サッカー楽し～だろ～な～>京都の選手」という前半の内容。ピッチを広く使い、岐阜の選手を釣り出しておいて空いたスペースを有効活用。こちらが当たりに行ったり、複数で詰めたりしても巧みに体を反転させたりして、ボールをつなぐ。こうやって勝つだろうな……という試合をやられてしまいました。ウチの選手たちも正直キツかっただろうなと思います。やはり、気温1℃で雨の中のナイト・ゲームを隣県とはいえアウェイで戦い、最後の最後であんな負け方をしてのアウェイ連戦。しかも、今度は真昼間の13時キックオフ。そのうえ、相手が休養十分な上に自動昇格が狙える位置にいる京都。テクニック等の基礎能力に勝る相手に、前半早い時間に失点し、さらに追加点を奪われる展開では勝機を得る

どころか勝ち点1を奪うのも至難の業になるのもやむなし、といったところでしょうか？

ただ、気になるのはこの試合にどういうプランを立てて臨んだのか、ということ。コンディションも整わない中で勝機を見出すためには先に失点をしないことが重要。はなっから勝ち点1を狙いベタ引きでもよかった。少なくとも前半を0-0のイーブンで折り返せば昇格をめざす京都は前掛かりになる。その間隙を縫ってのカウンター狙い。どれだけブザマでみっともなくとも「降格」という事実の前ではなりふりなんぞ構ってはいられません。まあ、いずれにせよ、結果論でしかありませんが……。

結局、後半に余裕をかました？京都から1点を奪い、あわや……のシーンも作りましたが、カウンターの好機やフィニッシュに行く手前でミスが出ては、如何ともしがたく。でも、済んだことはしかたがありません。悔やんでも、勝ち点は返って来ない。この試合、西京極のアウェイ席にはかなりの岐阜サポが参戦しました。京都という距離、日曜の昼間という好条件もあったのですが、残りの試合もこれ以上の動員で選手を支えたいですね。残留に向けて、共に戦いましょう！（ぐん、）

●台風17号が恨めしかった。台風により延期された松本戦が10/18に行われたため、アウェイのウチは中2日（！）、対するホームの京都は通常通りのスケジュール。しかも、久しぶりのデイゲームだったにも関わらず、汗ばむ陽気での試合。これはコンディショニングに厳しいな…と思ったことが、残念ながら現実となってしまった。

試合開始15分ぐらいで急に選手たちの足が止まり、これはヤバイ…と思った矢先に、中盤でボールを奪われたカウンターに対処しきれず失点。その後も動きは鈍く、立て続けに失点を繰り返し、前半だけで3失点。近場のアウェイでデイゲームということもあり、大勢駆けつけた岐阜サポで埋まったゴール裏も、無然としていた（と思う）。

このままじゃ…と選手たちも思っただろうし、あるいはロッカールームで激しい渇が飛んだのかもしれないが、後半は選手の動きが違っていった。後半03分に、洗一が胸で落としたボールを樋口がシュートして1点を返すと、一気に盛り上がるゴール裏。その後も選手たちはよく走り、セカンドボールを拾っての波状攻撃も。残念ながら追加点は奪えず敗戦となったが、失点を増やすこともなく、後半に関しては選手の気持ちも見えた試合だった。だから故に、その動きが前半からできてたらなあ…（溜息）と、何とも残念な試合でもあった。（ささたく）

【セカンド】東海1部を2位で終了

●東海社会人リーグ1部で戦っていたF C岐阜セカンド（以下「セカンド」）は、リーグ首位で迎えた最終節のホーム・鈴鹿ランポーレ（2位）戦を1-2で落とし、9勝3分2敗の勝ち点30となり、残念ながら最終節で逆転されての準優勝。全国地域リーグ決勝大会への出場はかないませんでした。まずは選手の皆さん、お疲れ様でした。

※現時点では、クラブから来季の「セカンド」の活動に関してのアナウンスメントはありません。（吉田鑄造）

【第40節】町田 1-0 岐阜

●京都戦に次ぐ2週連続のアウェイはお財布的にもなかなか厳しいものであったが、残留をこの目で見届けたい…その一心で野津田に乗り込んだ。

前半からボールを多く支配していたのは町田だった。岐阜のDFラインの裏に放り込んで北井を走らせてくることはミエミエだったので、それなりに関田や秀人が対応できてはいたが、反面攻撃ではボールを奪ってからのカウンターがうまく機能せずビッグチャンスも殆どないまま前半を終えることとなってしまった。

後半町田はいきなり2枚替えて活性化を図ってきて、そのうちの1人が北井と交代するのではと予想していた切り札勝又だった。立ち上がり注意して入らねばならないところを、その勝又にサイドから崩されて折り返されたところをディミッチに決められてしまった。その後町田の三鬼が黄紙2枚で退場となり、岐阜が数的優位に立ってボールポゼッションが増えたものの、町田は投入したばかりの勝又を下げ守備的な選手を投入し粘り強く守られてそのままタイムアップ。厳しい敗戦となってしまった。

これで町田とは勝ち点3差に縮まった。町田の結果次第ということになるが、内容次第では今日この試合で残留を決めることができる。もう選手に不平不満や罵声を浴びせている時期ではない。

『岐阜の興廃この一戦に在り』

選手もスタッフもボラスタもサポーターもこのチームに関わるすべての人々が1つになり勝利を掴み取ろう！

(岐阜の誇り)

●いろんな意味で世間の、というかJリーグに興味を持つ愛好家？の耳目を集めることになった裏天王山。もちろん、そんなことは歯牙にもかけず、自らの残留を確定するため町田に引導を渡すべく参戦した野津田陸上競技場（正確には、町田市立陸上競技場）。どこをどう見ても雨中の決戦必至だった天気予報。その予報通りに試合前から振り出した雨が試合開始前には上がり、その後帰途に着くまで降らずにいてくれたことはありがたかった。

だが、肝心の結果は0-1の敗戦。文字通り「負けられない試合」、もっと言うなら「負けなければOKな試合」で結果が出せなかったという厳しい現実。この日、アウェイ席に集まった岐阜サポは前節の京都戦を上回ったように見えた。1時間前ミーティングでは全員で円陣を組み、誰もがこの試合に賭ける意気込みを共有し、選手を鼓舞すべく臨んだのだが想いは残念ながら叶わず……。さらに、いっそう厳しい茨の道を歩むことになってしまった。

危ない場面もないではなかったが前半を0-0のイーブンで折り返し「このままいけば……」と思った矢先の失点。しかも、後半開始早々の失点だったことが悔やまれてならない。やはり、ミスが重なっての失点だった。その後は前掛かりにならざるをえなくなった岐阜が攻勢に出て何度かチャンスも作り、相手の退場もあって優位に試合を進めたのだがとうとうゴールはならず。セット・プレーがことごとくチャンスに結びつかなかったのも痛かった。

もちろん、選手にも重圧はかかっていたと思う。この試合の悔しさをバネに次節ホーム最終戦こそ結果を出せるよう全力でプレーしてほしい。もちろん、自分も少しでも支えとなるべく全力を尽くす。共に戦って残留を勝ち取ろう！（ぐん、）

●今シーズン最大のヤマ場。勝てば残留が決まるという大一番。「この試合で決める」「ここで引導を渡してやる」と、多くの岐阜サポがアウェイの地に集まった。普段よりも更に熱気は増し、練習時から大きな声援。決戦にふさわ

しい雰囲気だった。

前半は互角の試合だった。けれど、守備に関しては集中して守れているものの、失点を恐れてか、なかなか攻撃の形が作れない。惜しかったのは、野垣内からのボールをタイラがヘッドした場面ぐらいだったかな？ボールを回すスタイルの町田からボールを奪っても、自らのパスミスで再びボールを奪われ、またボールを回される展開が続いた。けれど、ボールを回されるのは中盤までで、それ以上はやられない守備で、膠着したまま前半は終了。

しかし、後半に向けて選手2人を交替させた町田が、ほぼ唯一と言っても良い機会をモノにする。後半の立ち上がりの隙を突き、交替したばかりの#7勝又に左サイドを突破されて中へ折り返されると、マークの外れていた#10ドラガン・ディミッチに先制点を献上してしまう。この大一番で守備のミスが出るとは…残念としか言いようがない失点シーンだった。

その後は岐阜も前がかりになって攻めるようになったが、なかなかシュートを撃つところまでいけない。後半3分に町田の#18三鬼が警告2枚で退場になったのだけど、それでも優位にならない。樋口とアブタのシュート、あれが入ってくれていれば…結局、1-0で試合終了。勝利への執念を見せて全力で戦った結果の敗戦ならともかく、カードを恐れずに激しく向かってくる町田の迫力、あるいは大一番のプレッシャーに選手たちが何となく萎縮してしまっていたような感じがして、残念な試合だった。（ささたく）

J F Lの現在の状況について。

前節でF C岐阜が町田に勝利してこの欄はなくなる予定だったのですが（泣）、不本意ながら降格の可能性が残っているため、載せます。

11/3時点のJ F L順位表です（上位のみ）。

1位：V・ファーレン長崎 29試合：勝点60 +29

2位：長野パルセイロ 29試合：勝点55 +24

3位：SAGAWA SHIGA FC 30試合：勝点53 +21

昨日（11/3）の試合でSAGAWA SHIGAが敗れたため、長崎の2位以上（J2昇格か入替戦出場）が確定しました。今日の試合で長崎が勝って長野が引き分け以下ですと、長崎のJ F L優勝=J2昇格が決まります。

長崎と長野の残り試合です。

V・ファーレン長崎

H・MIOびわこ滋賀

A・Y.S.C.C.

H・ソニー仙台

長野パルセイロ

H・ブラウブリッツ秋田

A・藤枝MFC

H・Y.S.C.C.

（吉田铸造）

【ユース】 「Jユースカップ」を観て来ました

●我らがF C岐阜ユースU-18（以下F C岐阜ユース）はJユース選手権大会（＝Jユースカップ）を戦っています。10/21（日）にアルビレックス新潟ユースと、10/27（土）に東京ヴェルディユースとの対戦が有り、それぞれ0対3、1対3で敗戦しています（涙）。

このうちアルビレックス新潟ユースとの試合は現地観戦しました。試合前にピッチに出る選手達の様子で非常に気合が入っているのが判りました。そして試合中も互角の戦いをしていましたが、相手がこちらのミスを見逃さず得点を重ねていき、逆にF C岐阜ユースの惜しい場面も数多く有りましたが、相手GKの好セーブにも阻まれ、悔しい敗戦となりました。

2敗した為に決勝トーナメントへの進出は困難になりました。なので予選リーグの残り試合の11/10の川崎フロンターレ戦が今年度の公式戦の最後となるでしょう。3年生はF C岐阜ユースでの活動の集大成として、1・2年生は来季に繋げる為にも是非勝ちを目指して行きましょう！！頑張れよ！応援しているから！！FORZA！F C岐阜ユース！！（シュナ）

●なかなかユースの試合を見る機会はないのだが、トップチームの町田戦の前日に開催されるということで、よみうりランドまで足を運ぶことにした。

試合序盤は粘り強くヴェルディの攻撃を跳ね返していたものの、次第に力量の差が現れ始めて3失点。しかしながら後半アディショナルタイムに1点を返すことができた。ヴェルディはメンバーを若干落として戦ってきていたが、それでも技術的・体格的に開きがあるのは歴然としていた。でも岐阜の選手たちは最後まで気持ちを切らすことなく戦っていた。まずはそこを讃えたい。終了後の選手たちの涙を見るのは、非常に辛かった。またユースの試合、機会を設けて見に行きたいと思う。（ユースの父の代理）

●町田戦の前日にユースの試合があると聞き、会場であるよみうりランドへ行ってきました。グラウンドに隣接するクラブハウスや窓ガラス越しに見ることができるトレーニング・ルームがとてもうらやましく感じられました。

ただの観戦者なのに、ヴェルディ・ユースやジュニア・ユースと思いき少年達から「こんにちは！」という元気のいい挨拶を受け、少々気恥ずかしく感じました。もちろん、我らが岐阜ユースの選手達からも同様の挨拶を受けたことは言うまでもありません。しっかり指導されていることが伺えます。

試合は公式にも出ていますが1－3の敗戦。ヴェルディの選手には来季トップへ昇格する選手も出場してしていたことを顔見知りのスポーツ・ライターさんから伺いました。やはり、体格というか体幹から違うことがユニフォームの上からでもわかります。1969という歴史も感じました。失点はミドル・シュートのこぼれ球を詰められたのと、やはりミスから。それでも、何度もあったピンチをGKを初めとする体を張った守備で防いでいく姿に、思わず力が入りました。微力ではありましたが声を出して声援も行いました。試合終盤には待望のゴールも決めてくれて感激もひとしお。懸命の粘りでボールをつないだ素晴らしいゴールでした。

また、選手のご家族や後輩がバスで応援に駆けつけておられたことにも感動しました。もちろん、門外漢なのは自分だということはわかっていますが（笑）コーヒーの差し入れもいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。また、応援に行きたい。そう思わせる試合でした。（ぐん、）

今シーズンのベストゴール、 ベストゲーム、MVPは？

◆ベストゴール

●第35節・ホーム湘南戦での冼一の2点目
まさにゴラッソ！クロスが上がった時から、フィニッシュまで完璧に絵が描けてたんじゃないか？と思わせるような得点。もっと見せてくれたらよかったのに……（ぐん、）
ゴールに背を向け左からくるボールを右足でトラップし、その瞬間反転し左足を振りぬく。まるでレイソル田中順也がのりうつったかのようなキレのあるゴールでした。同点に追いつかれた直後というのも素晴らしい。あとでスカパー視たら、珍しくゴリが褒めてたね。（cruyff）
やはり圧巻は2点目でしょう。湘南に同点に追いつかれたわずか1分後、服部からのロングボールを、DFを背にしながらジャンプしつつ左足で足元に収めて、着地した直後に反転して、左足を振り抜いてシュートを決めるという、試合の流れとしても、技術的にも本当にゴラッソでした。（ささたく）

●第36節・アウェー水戸戦のリ・ハンジェ

試合自体は引き分けに終わったが、アウェー水戸戦の尾泉のCKをダイレクトで叩き込んだハンジェの同点ゴール。岐阜もこんなゴールを決められるようになったのかと喜び、また驚いたものだった。（岐阜の誇り）

◆ベストゲーム

●第32節・ホーム東京V戦

そりゃだってあなた、うちがああのヴェルディに勝ったんですぜ！それだけでベストゲームでしょう。まったく今まで何度煮え湯を飲まされてきたことか。あの大の苦手に勝てたなんて……いつかはそういう日が来るもんだね。信じて待ってよかった。（cruyff）

内容とか細かいことは抜きにして、今まで勝てなかった東京V、湘南に勝てたことが本当に嬉しかった。甲乙付け難いので、この2試合をベストゲームに。（岐阜の誇り）

●第35節・ホーム湘南戦

今まで勝てなかった相手に勝利できたという意味では、薫田新社長と今西前社長の挨拶があるという、非常に大事な試合を制した第32節・東京V戦とも迷いましたが、今年の屈辱的な大敗（1－7）をリベンジできたし、冼一がハットトリックを達成したし、両チーム共に素晴らしいゴールが生まれた（そしてウチが勝った）し、しかも試合をメドゥで堪能できたという点から、こちらを選びました。（ささたく）

●第41節・ホーム徳島戦

7勝のどれもが、というか7勝だからこそどれもが……（以下略）。でも、あえて挙げれば今日の徳島戦！とにかく、結果を出してください。それだけで、まちがいに今季のベストになる。信じて支えるから。（ぐん、）

◆MVP

●服部年宏

文句なく6番。ここまでリーグ戦フル出場。どうか、最終節まで共に戦えますように……。 （ぐん、）

正直言って獲得が発表されたときは、今更この年齢の選手に本当に期待していいのか半信半疑だった。ところが、蓋を開けてみたらやっぱり物が違った！39歳になっても全く衰えない体力・気力・勝負への執着心。終盤の体力的にきつい場面でもチャンスと見れば一気に駆け上がるのはハット。これはやられたと思ったときゴール前でスライディン

グしてピンチを防ぐのはハット。まさに鉄人。
さらにその姿勢や直接の苦言で、うちの甘ちゃん選手たちにも少なからぬ変化が現れたのも確か。今年のソメの試合終了まで走り続ける姿なんて、去年までは見られなかったもの。服部の存在の大きさだと思う。（cruyff）

いや、もうこれは…個人的には超鉄板です。今期加入が発表された時には本当に驚いたし嬉しかった。そして、その期待に違わぬ、大ベテランならではの試合の流れを読む力やリーダーシップ、誰よりもピッチを駆けめぐり全試合フル出場する鉄人ぶりたるや、流石は「世界を知る男」。まだまだチームに「服部イズム」が浸透してなくて歯がゆい思いをしているかもしれないけれど、来期もチームを引っ張って欲したい。というか、お願いですから来期以降も契約してください。土下座して懇願。（ささたく）

●関田寛士

ルーキーでありながら今やC Bの一角として欠かせない存在になった関田を推したい。左S Bに起用された時には不安な面も見せていたが、C Bに起用されるようになると恵まれた体格を生かして相手の攻撃を跳ね返していた。この1年間での成長振りは素晴らしいものがある。他チームに目を付けられたりしないか今から心配（笑）。
（岐阜の誇り）

今年の、そして来年のF C岐阜へ。

●今シーズンは、メンタルが弱いというか、消極的なプレーが多いように感じました。積極的な時は昇格争いしている上位チーム相手から勝ち点を奪う事ができていますが、消極的な時は必ずと言っていい程負けているように見受けられます。

今現在、残留争いの真っ只中ですが、「絶対に勝つ」という強い気持ちで勝利して、必ず残留して来季はシーズンを通してひたむきに、粘り強く泥臭く勝つ事の出来るチームになって欲しい、と強く願っています。（ブラウ@翠魂）

●今年のJ 2は、「J 1 プレーオフ制度」「J F Lへの降格制度」そして「クラブライセンス制度」が導入され、大きな変革が起きたと思う。

J 1に昇格、あるいはJ F Lに降格しない為にはチームを強化しなくてはならないが、しかし財政的な裏付けがなければ債務超過となり、ライセンスを失う…クラブ経営とチーム強化の絶妙なバランスを要求され、大企業の経営支援を持たない地方チーム、つまり我々F C岐阜のようなチームにとっては、一層厳しい環境となったと思う。しかし、これらの制度の導入によって、今年のJ 2が非常に面白く活気に満ちたリーグになったことは間違いないだろう。もっとも、J 2のサポーターにとっては1試合毎の結果に一喜一憂する、精神衛生上非常によろしくないシーズンになったとも言えるのだけど（苦笑）。

さて、今年のF C岐阜は行徳新監督を迎えての1年目。残念ながら3年連続して監督が1年で交替しており、チームとしての積み上げがない状況での出発だった。昨年は守備が崩壊して大量失点しての敗戦が続いたので、まずは守備の立て直しが急務だった（と思う）。その結果、序盤はなかなか勝てない状況だったが、守備が安定してくると、徐々に勝てるようになってきた。しかし、昨年の得点源を失った影響は大きく、得点も減ってしまっていることがデータからもわかる。過去3年間の、1試合あたりのチームの得点および失点は、

2010年 0.89得点 1.25失点 14/ 19位

2011年 1.03得点 2.18失点 20/ 20位

2012年 0.63得点 1.30失点 21/ 22位（第40節現在）

となっている。やはり、ゴールはスタジアムを沸かせ、観客数を増やす要因にもなるし、多くの観客は選手のモチベーションに影響を与え…という好循環になるので、もう少しゴールが見たかったかなと思う。しかし、現在の練習環境では組織的な攻撃練習が難しいのも事実。来年度には完成するという話の、笠松の専用（？）練習場に期待したいところだ。

また、クラブ経営については大きな変化（変革？）があった。クラブライセンス交付に関して、不足する運営資金を岐阜県の財界が負担する一方、今西社長と服部GMが辞任した。経営責任をとられて辞任された訳だが、お二人が、これまで財政事情の苦しいクラブ経営をさせていただいたことに深く感謝したい。特に今西さんは、F C岐阜のJ昇格に関して、最大の功労者といっても過言ではないだろう。その方々がクラブを去るのは寂しい限りだが、薫田新社長体制の元で、「地域密着型」というクラブ理念を継承しつつ、新たなクラブ経営にも期待したいと思う。そして、幸か不幸かこの経営問題を発端として、岐阜県内の財界から大きな支援を受けることが出来た。この支援を継続してもらうためのクラブ経営も求められるだろう。

現在、まだまだ降格争いは（残念ながらF C岐阜を含む）4チームで混沌としており、来年の展望を気軽に話せるような状況ではないかもしれない。でも僕は、絶対にF C岐阜が残留してくれると信じている。それを踏まえた上で言わせて貰えば、やはり毎年監督が替わるのはよくない。来年も、行徳監督2年目のチーム作り（それは監督の希望を組み入れた強化体制でもあるが）を強く希望したい。そうでなければ、また来年も順位が低迷してしまうことだろう。「潤沢な予算で選手をかき集める常勝チーム」なんてのにウチが来年からなれるとは思わない（苦笑）けれど、もう少し来シーズンは「勝った負けた」で喜ぶたいものだ（苦笑）。

あと、難しいのは十分に分かっているんですが、年に1回ぐらい、水曜ナイターとかの時にメドウ開催してくれないかなあ…。（ささたく）

●プレシーズンの磐田戦を現地で観てて（1-0で勝利）、「今年は20位争いは出来るな」と思ったのだけど、当たってしまった（苦笑）。昨年より圧倒的にいいサッカーになっているのだけど、なにせ比較対象が昨年の岐阜なので（再苦笑）、そのくらいの評価しか出来なかった。実際、得点力は激しく落ちた。だから、内容はいいのだけど勝利数は散々だった昨年とそんなに変わらない。でも、引き分けが圧倒的に多い。これは、守備が出来るようになってきたから、だろう。

つまり、優・良・可・不可でいったら「可」しかつけない。そんなシーズンだった。この戦力で行徳監督は本当にチームを戦える状態にまで持ってくれた。実際、シーズン序盤は目を覆うようなミスで連発だったけど、後半には「ミスさえなければ試合にはなる」状態にまでなっていた。そうでなければヴェルディや湘南に勝つなんて出来なかっただろう。

もちろん、J 2に残留しなければどうしようもないのだけど、残留はすると信じて、行徳監督には是非来年も指揮を執ってほしい。選手の入替えも行って、行徳監督の目指すサッカーというものを披露してほしい。ぼくらは『チームの継続』というものを、2シーズンもの間、観ていないのだ。（吉田铸造）

